

昭和館と学校をつなぐ広報紙

昭和館だより 第2号

高等学校用

平成19年3月 編集・発行



〒102-0074
東京都千代田区九段南1-6-1
☎03-3222-2577
<http://www.showakan.go.jp>

昭和館が「昭和」と「今」とをつなぎます



昭和館は、平成11年（1999）3月に開館しました。昭和10年ごろから30年（1935～55）ごろまでの暮らしを戦中・戦後に分けて、分かりやすく伝えています。

常設展示室（七・六階）では、昭和十年頃から三十年頃までの実物資料、写真等の展示を通じて、当時の国民生活の労苦を伝えていきます。各コーナーには、「解説シート」が置かれ、自由に手にすることが出来ます。六階の「体験ひろば」では、当時の衣服を着たり、生活用品に触れることができます。なお、常設展示室のみ、有料（高校生一五〇円・団体二一〇円）



7・6階 常設展示室

となっております。

映像・音響室（五階）では、タッチパネル方式の検索端末を使い、

貴重な昭和期の記録映像、写真、

音楽、更に雑誌等のデジタル化された資料を見聞きすることが出来ます。また、ニュース映画専用の検索コーナーもあります。

図書室（四階）では、戦中・戦後の体験記、公刊された戦史等の図書、雑誌、新聞縮刷版を閲覧できます。所蔵資料は、タッチパネルで簡単に検索できます。



4階 図書室



5階 映像・音響室

昭和館懐かしのニュースシアター（二階）では、昭和期のニュース映画を毎日四本ずつ上映しています。番組は、毎週土曜日に更新されます。



1階 昭和館懐かしのニュースシアター

【学習利用法】

当館は、毎年、多数の高校生が見学に訪れます。当館を見学し、当時の実物資料を目にし、衣服を身につけ、映像・音響資料や図書等を閲覧する事で、当時の国民生活を具体的に学ぶ事ができます。当館では、学校団体に説明員による案内を行っています。また、バスも無料で駐車できます（事前のご予約が必要です）。修学旅行、社会科見学等に、昭和館をご利用下さい。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

特別企画展

「手塚治虫の漫画の原点」

「戦争体験と描かれた戦争」

期間・平成十九年三月十四日(水)

～五月六日(日)

「鉄腕アトム」「火の鳥」などの作品でおなじみの漫画家・手塚治虫は、戦後、自らが体験した戦争そして平和への思いを、様々な漫画にメッセージとして込めてきました。本企画展では、手塚治虫の直筆原稿や写真を中心に、戦中・戦後という日本人が最も苦労した時代をふりかえります。

この一冊

<図書資料>



「高校生の平和ハンドブック」 (平和文化)

学校の内外で、平和と自由のための学習・研究活動を続ける全国各地の高校生とその活動を支える先生方の手でつくられた記録集です。「平和」学習の参考書として利用してみてもいいでしょうか。この本は、当館4階図書室で閲覧できます。

展示室から

「収藏品紹介」

氷冷蔵庫

七階常設展示室「昭和十年頃の家庭」のブースにある資料です。木製の箱の内部にブリキの板が張られ、その間には熱を伝えにくい石綿やおがくずが詰められています。箱の内部はすのこなどで仕切られ、上段には氷を置き、下段には食品を入れました。氷が溶けて出る水は、下の水受けの器に溜めたり、ホー

スを使って外部に排水しました。氷冷蔵庫は都市部を中心に使用されていましたが、大変高価なため利用できるのは商売で必要とする家か、裕福な家庭に限られていました。使用するのも夏場に限られ、冬場は物置になることが多かったようです。中に入れる氷は氷屋が配達にきました。



今日一枚

<写真資料>



合唱する孤児たち (昭和22年12月・横須賀)

歌っているのは、戦争で家族をなくした身寄りのない子どもたちです。一緒にいる女性は、戦争でご主人をなくしています。がんばって生きていこうという皆の気持ちが一つになっているのがわかります。この写真は、当館5階映像・音響室で見ることができます。

平成18年度の主なご来館校

千葉県立流山東高等学校 2年生	154名
東京都立目黒高等学校 2年生	140名
福岡県立門司大翔館高等学校 2年生	131名
埼玉県立人間高等学校 1年生	122名
明治大学附属中野高等学校 1年生	94名
二松学舎大学附属高等学校 1年生	69名

(平成19年2月28日現在・人数順)

硫黄島での遺骨収集

クリント・イーストウッド監督の映画「父親たちの星条旗」「硫黄島からの手紙」の公開等をきっかけに、硫黄島に対する関心が高まっています。

昭和館の常設展示室「慰霊の旅」コーナーでは、海外戦没者の遺骨収集や慰霊事業について紹介しており、硫黄島で収容された万年筆等も展示しています。

東京の南方約二二五〇kmに位置する硫黄島は、先の大戦で本土防衛の最前線として約二万二〇〇〇人が配備されていました。全島の要塞化を図り、数百の地下壕を構築し、激戦を繰り広げましたが、同島の日本軍はほぼ全滅しました。亡くなった方の遺骨の多くは、戦場に残されたままとなっていました。昭和二十七年(一九五二)の国会決議により海外戦没者の遺骨収集に着手することとなり、硫黄島からも、平成十八年三月三十一日現在で八五一一柱の遺骨が送還されています。



ご意見を
お寄せください

本紙を読まれたご感想、昭和館へのご意見、また実際に見学された際のご感想等を下記にお送りください。今後の編集と、館の運営の参考にさせていただきます。

〒102-0074

東京都千代田区九段南1-6-1

昭和館 総務課

ファックス 03-3222-2575